

ゆかりの寺シリーズ

その1

豊臣秀吉 ゆかりの寺 「方広寺」



京都の街を南北に延びる、東大路通の一筋西にある大和大路を七条から北に歩くと、方広寺の石垣が見えてきます。

天台宗の寺院である方広寺は、豊臣秀吉が東大寺に倣って大仏（盧舎那仏）を安置するために、天正十四年（1586年）から十年もの歳月をかけて造られた寺院です。

文禄四年（1595年）には、南北88m、東西54m、高さ49mの巨大な大仏殿が完成し、高さ約19メートルの木製金漆塗座像が安置されますが、翌年、京都を襲った慶長大地震によって大仏は大破してしまったそうです。

秀吉は慶長三年（1598年）に、大仏開眼供養を待たずに亡くなりました。

秀吉の意志を継いだ豊臣秀頼によって金銅製の大仏が完成したのは、江戸時代となった慶長十七年（1612年）のことだそうです。

その後も大仏殿と大仏は焼失と再建を繰り返し、現在は巨大な石垣の一部だけが当時と変わらぬ姿で残っています。

現在の方広寺の境内には、創建当時の梵鐘が残っています。高さ4.2m、外径2.8m、厚さ0.27m、重さ82.7tもの巨大なこの鐘は、東大寺、知恩院の鐘とともに日本三大名鐘といわれています。

この梵鐘に彫られた銘文「君臣豊楽」「国家安康」が、徳川家を冒瀬するものとされ豊臣家滅亡のきっかけとなったといわれている銘文です。

「君臣豊楽」「国家安康」は、豊臣が君主として家康の名を分断したと徳川家康の怒りをかったそうですが、「国家安康」は国の安泰を願う一般的な表現であることから、現在では徳川家がこの銘文を曲解して、豊臣家に因縁を付けたものと解釈されています。



方広寺本堂



方広寺 梵鐘



方広寺 梵鐘の文字

本寺の換気を徹底し、参拝者はマスク着用及びアルコール消毒液の備用をお願い致します。



講師 朝枝暁範師（北広島町中原本立寺）
＊お接待当番 武士地区

〔昼席のみ法要開催決定〕
「報恩講」（善教寺本堂）
十二月 二日（木）
午後一時半 読経（正信偈）
午後二時 法話
午後四時 法要終了

講師 広幡康祐師（呉市安浦町信楽寺）

〔朝席のみ法要開催決定〕
「護持会報恩講」（善教寺本堂）
十月二十三日（土）
午前九時 午前九時半 法話
午前十一時半 法要終了
読経（正信偈）

「宗祖聖人月忌・門信徒祥月命曰法要」（善教寺本堂）
十月十六日（土）午後一時半
＊毎月十六日に本堂において勤めております。



ご縁に感謝
善教寺ホームページ『縁』 <http://otera.or.jp/> メール zenkyo@otera.or.jp

